



## 那覇港飛躍の年

常勤副管理者 藤田佳久

新年明けましておめでとうございます。

平成 25 年、西暦 2013 年が始まりました。昭和に生まれ育ってきた世代にとって、すでに平成の世になって四半世紀というのは驚きです。わが国最大の政治課題となっているデフレ脱却。わが国がデフレ経済になってから 20 年近くが経とうとしています。21 世紀になって 13 年目というのも驚きです。10 年ひと昔と言いますが、10 年間というのはあっと言う間です。10 年後に後悔しないように、那覇港のあり方を考える際、最低でも 10 年先を見通しておく必要があります。世の中の変化に即応するためには、常に先取りした準備、対応が不可欠です。特に、施設整備に構想から建設まで長期間を要するので要注意です。

今年のトピックスとしては、観光関係では、クルーズ船寄港数の記録更新と超大型クルーズ船ボイジャー・オブ・ザ・シーズの寄港、管理組合議会議員によるマイアミ港視察及びポートセールスなどがあります。物流関係では、台湾航路の復活・新設、ハワイへの延伸、社会実験による輸出貨物の掘り起こしなどがあります。また、那覇港だよりを発刊するとともに、那覇港の経済効果を推計し県民に広く広報するなど、那覇港に対する理解増進に努めました。

今年は、昨年までの実績の上に立って、臨空臨港型産業を沖縄県の次のリーディング産業に育てていくための施策を加速していきます。具体的には、ガントリークレーンの増設、総合物流センターの整備、新港ふ頭から浦添ふ頭への一部機能移転、荷主・船社に対する支援を通じた貨物増大事業の推進などに取り組みます。もうひとつの沖縄振興の柱、観光・リゾート関係では、クルーズ船旅客ターミナルビルの建設、浦添コースタルリゾート事業の実施、三重城小船溜から若狭海浜公園に至る地域の指定管理者への管理委託によるにぎわい空間づくりなどに取り組んでいきます。また、那覇港のマスタープランである港湾計画の改訂作業に取り組んでいきます。国には物流や人流を担う基幹施設である臨港道路浦添線や若狭 2 号線の早期完成に向けた整備促進などをお願いしております。

沖縄の地理的優位性を活かし、沖縄がアジアのさらには世界の物流、観光、情報の拠点として発展していくのだという意識は、政治、経済、学術、行政の場を中心に大きく広がってきています。那覇港がその一翼、さらには先導役としての役割を担えるように、那覇港の有する機能、特性、潜在力、歴史性、空間的広がりを活かしながら取り組んでいく必要があります。大きな歴史的転換点に差し掛かっています。それを追い風として、今年は、那覇港飛躍の年にしていきたいと思っております。

## 大型旅客船ターミナル設計完了！

平成 26 年 3 月竣工目指し、工事を発注

(企画建設部 建設課)



完成予想図 1

このたび新しい那覇の玄関口となる、大型旅客船ターミナルビルが設計が完了しました。鉄骨造 2 階建て延べ面積は約 4,500 m<sup>2</sup>で 1 階にバス待機スペースやエントランスホール、観光案内、2 階に入国審査場兼多目的ホールや待合スペース、屋上階に展望デッキの配置になっております。

コンセプトである交流・観光拠点となる海の玄関口を目指すことと、スムーズな入国審査等を行い、外国人観光客の利便性向上を図る事に配慮し設計を進めてきました。

クルーズ船来港時は、出入国審査や検疫、税関検査の各審査業務を中心としたホールの使い方となりますが、クルーズ船が入港しないときには、各種イベントや展示会等、多目的に使えるホールとして貸し出します。

ターミナル敷地は、若狭海岸から突出した海上に位置し、棧橋構造となっております。棧橋構造の敷地ということで、建物荷重や配置の制限など多くの課題を解決しつつ、まれに見る海上建築の設計が完結しました。四方海に囲まれた海上建築の特徴を活かすよう、クルーズ船だけでなく海を使ったイベントにも多く使われることを願っております。

現在、建築や電気、機械等の工事発注を進めており、平成 26 年 3 月の竣工を目指しております。



完成予想図 2

### 【施設概要】

敷地の場所：那覇港泊ふ頭地区（若狭地先）

施設用途：待合所、入国等審査場兼多目的ホールほか

延べ面積：約 4,500 m<sup>2</sup>

構造：鉄骨造 2 階建て

## 那覇港の人命救助体制の向上を目指して

(総務部 業務課)

去る8月16日(木)、那覇港へ初めて沖縄県ドクターヘリが、泊ふ頭8号岸壁(大型旅客船バース)に着陸しました。

この度のドクターヘリの着陸は、平成24年3月に那覇港管理組合と那覇市消防本部の間で制定した、「災害発生時における那覇港管理組合管理地内への沖縄県ドクターヘリ緊急着陸要領」を踏まえ、那覇市消防本部、沖縄県ドクターヘリ、南部徳洲会病院ドクターカー等の関係機関の連携と役割確認のため行われた訓練による着陸です。

訓練の内容は、岸壁から車両の転落事故を想定し、事故発見者からの119番通報により消防隊が駆けつけ、同時にドクターヘリとドクターカーにも出動要請を行い、救急隊と医師らが連携し、ヘリの飛行時間や負傷者の現場での救命措置の在り方などを確認するものでした。



ちなみに、那覇港内におけるドクターヘリの緊急着陸場は、電柱等の障害物や飛散物の恐れがない周囲15メートル四方の空地で、消防隊員が侵入防止の安全監視を確実に出来る場所と取り決められており、実際の着陸地場として各ふ頭のエプロン、荷捌き地、ふ頭内道路、緑地等が想定されています。

万一、那覇港内で事故が発生しドクターヘリが要請された場合は、着陸地点から最低半径20メートル以上は、消防隊員による立入禁止規制が行われますので、那覇港で働く港湾関係者のご理解とご協力が必要とされています。

那覇港管理組合は、人命救助体制の向上のため、行政機関との連携を推進し、安心・安全な港づくりに取り組んでいきます。

今後とも関係機関の皆様方のご協力をよろしくお願いします。

## ～那覇港の統計(平成23年)からみる那覇港と県内外港の関係～

(総務部総務課)

那覇港管理組合では那覇港の現状を把握し、今後の発展の方向を模索するため、毎年、船舶、乗降人数、海上出入貨物、施設利用状況、コンテナについての統計をとり、那覇港の統計としてまとめております。今回はその那覇港の統計より県内外の各港と那覇港の関心に焦点を当てて、紹介いたします。

### (1) 那覇港と取引量の多い国内港(那覇港の統計-2011-80P中段)

沖縄とは沖縄県内の港の合計を指しておりますが、合計と移出で第一位、移入で第三位を占めており、県内港と那覇港の関心の強さを示しております。

県外では大阪、東京、福岡といった大きな港を抱えた大都市との関心が強いことが分かります。

順位	内				貿									
	合		計		移		出		移		入			
	県	名	ト	ン	数	百分比	県	名	ト	ン	数	百分比		
1	沖縄		1,920,146		21.72	沖縄		765,813		26.96	大阪		1,362,522	22.70
2	大阪		1,888,105		21.35	東京		543,710		19.14	福岡		1,246,577	20.77
3	福岡		1,773,064		20.05	福岡		526,487		18.53	沖縄		1,154,333	19.23
4	東京		1,347,931		15.24	大阪		525,583		18.50	東京		804,221	13.40
5	鹿児島		1,182,969		13.38	鹿児島		413,438		14.55	鹿児島		769,531	12.82
6	愛知		246,243		2.78	兵庫		45,678		1.61	愛知		246,243	4.10
7	兵庫		133,394		1.51	長崎		6,988		0.25	兵庫		87,716	1.46
	その他		350,409		3.96	その他		13,274		0.47	その他		330,147	5.50
合計			8,842,261		100.00			2,840,971		100.00			6,001,290	100.00

### (2) 那覇港と取引量の多い県内港(那覇港の統計-2011-80P下段)

沖縄県内では石垣、宮古島といった南西諸島の中でも大きな港を持つ島への移出が第1位、第2位を占めるほか、久米島(兼城、渡名喜)、渡嘉敷など沖縄本島周辺への島々への大量の貨物を移出して、住民の生活を支えている事が分かります。

また、移入では石垣、宮古島が上位を占めるほか、金武港、安和港、中城港といった沖縄本島内の港が上位に入っています。

順位	県				内				貿								
	合		計		県		内		移		出		移		入		
	港	名	ト	ン	数	百分比	港	名	ト	ン	数	百分比	港	名	ト	ン	数
1	石垣		458,752		23.89	石垣		257,619		33.64	石垣		201,133		17.42		
2	宮古島		409,467		21.32	宮古島		233,892		30.54	金武湾		193,131		16.73		
3	兼城		205,825		10.72	兼城		111,555		14.57	宮古島		175,575		15.21		
4	金武湾		193,131		10.06	渡嘉敷		38,630		5.04	安和		148,170		12.84		
5	安和		148,170		7.72	渡名喜		33,326		4.35	中城湾		122,897		10.65		
6	中城湾		122,897		6.40	粟国		28,515		3.72	諸港(海上)		108,472		9.40		
7	諸港(海上)		108,472		5.65	北(南大東)		20,280		2.65	兼城		94,270		8.17		
	その他		273,432		14.24	その他		41,996		5.48	その他		110,685		9.59		
合計			1,920,146		100.00			765,813		100.00			1,154,333		100.00		

### (3) 那覇港と取引量の多い本島内港の貨物内容(那覇港の統計-2011-71P中段左、72P上段左)

金武港、中城港は主に、石油類を那覇港に移入しており、船舶、航空機などのエネルギーを供給しております。

安和港は名護にあるセメント工場より、建築・建設に必要なセメントを大量に運び、本島南部への供給を満たしております。

本島内での輸送においても、生活必需品である燃料や材料の大量一括運搬の受け入れ役を担い、住民の生活を支えていることが分かります。

(単位:トン)

沖縄諸港	金武湾		中城湾		安和(沖縄諸港)	
	重油	1,793	重油	34,682	セメント	148,170
	石油製品	189,916	石油製品	86,793		
	LNG(液化天然ガス)	1,422	LNG(液化天然ガス)	1,422		
	港計	193,131	港計	122,897	港計	148,170

# 那覇港管理組合における平成23年度決算の概要

(出納室)

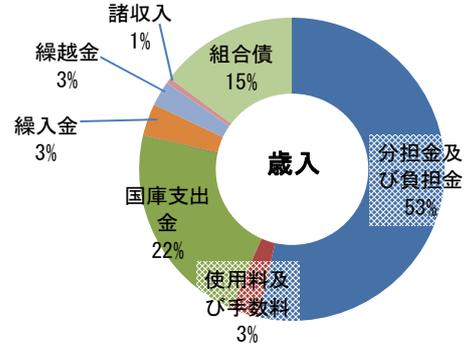
## 《 一般会計 》

一般会計の決算額は、歳入総額36億7,887万円、歳出総額35億6,224万4千円となっており、前年度と比較すると歳入については2億2,643万6千円(6.6%)の増、歳出については2億601万7千円(6.1%)の増となっています。

### 歳入

(金額：千円)

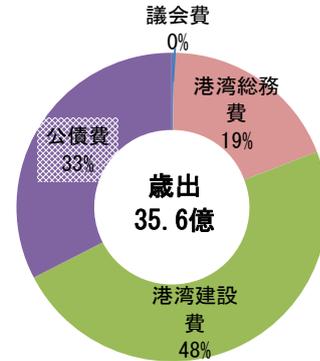
歳入区分	H23年度		H22年度
	予算額	決算額	決算額
分担金及び負担金	1,971,048	1,971,048	1,968,439
使用料及び手数料	109,752	110,524	113,294
国庫支出金	1,383,692	809,922	551,582
県支出金	664	664	664
財産収入	1	168	1,188
繰入金	143,799	126,544	115,727
繰越金	96,207	96,207	76,015
諸収入	156,525	21,493	35,625
組合債	689,700	542,300	589,900
歳入計	4,551,388	3,678,870	3,452,434



### 歳出

(金額：千円)

歳出区分	H23年度		H22年度
	予算額	決算額	決算額
議会費	7,885	7,837	8,341
港湾総務費	714,984	675,123	658,395
港湾建設費	2,648,067	1,719,440	1,466,311
公債費	1,172,070	1,159,844	1,223,180
予備費	8,382	0	0
歳出計	4,551,388	3,562,244	3,356,227



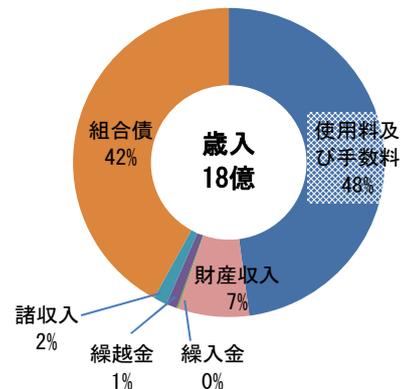
## 《 特別会計 》

特別会計の決算額は、歳入総額18億34万7千円、歳出総額17億3,991万2千円となっており、前年度と比較すると、歳入については2億456万1千円(12.8%)の増、歳出については1億6,496万6千円(10.5%)の増となっています。

### 歳入

(金額：千円)

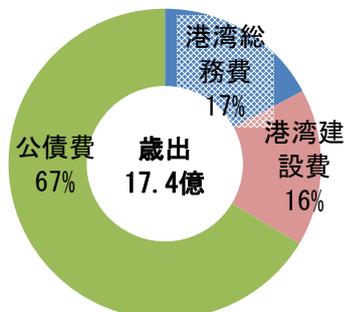
歳入区分	H23年度		H22年度
	予算額	決算額	決算額
使用料及び手数料	815,547	862,216	830,548
財産収入	139,663	132,376	125,676
繰入金	3,000	3,000	8,774
繰越金	20,841	20,840	44,608
諸収入	22,348	25,015	22,480
組合債	1,484,800	756,900	419,700
県・市支出金	0	0	144,000
歳入計	2,486,199	1,800,347	1,595,786



### 歳出

(金額：千円)

歳出区分	H23年度		H22年度
	予算額	決算額	決算額
港湾総務費	334,447	299,170	404,232
港湾建設費	985,687	284,862	76,044
公債費	1,164,228	1,155,880	1,094,670
予備費	1,837	0	0
歳出計	2,486,199	1,739,912	1,574,946



9/26～9/27



上海クルーズ・コンベンションへ参加、那覇港をPR

- 中国上海においてクルーズ・コンベンションが開催され、那覇港からも参加し、世界各国のクルーズ船社、旅行社に対し、那覇港のPRをすることができました。併せて、上海在のクルーズ船社、旅行社、貨物船社、物流関連企業に赴き、ポートセールスを行いました。

10/15～10/21



組合議会議員マイアミ視察

- 那覇港管理組合議会(赤嶺昇議長)は、平成24年10月15日から21日の日程でクルーズ先進国、米国マイアミ港港湾局及びクルーズ船社ロイヤル・カリビアン・クルーズ社、ノルウェー・クルーズ社を訪問し視察調査を行いました。
- マイアミ港港湾局においては、世界有数のクルーズ拠点港としての取組や、ターミナル施設の視察を行いました。
- クルーズ船社に対しては、積極的に那覇港のポートセールス(寄港誘致活動)を行いました。クルーズ船社とのヒヤリングにおいては、近年のクルーズ船の大型化に対応する施設の整備はもちろんのこと、ソフト面として、外国人観光客に対する通訳の充実を始め、受入体制の強化や、アトラクションとしての魅力づくりが求められました。

11/7(水)



全国クルーズ活性化会議発足し、那覇港管理組合管理者が副会長に就任

- 全国レベルでクルーズ振興、誘致を図り、地域振興・経済の活性化等を目指すことを目的に、全国79の港湾管理者らにより構成される「全国クルーズ活性化会議」が発足。那覇港管理組合管理者が副会長に就任しました。



2012年クルーズ船寄港回数、過去最高を記録!

- 2012年のクルーズ船の寄港が、1月1日の最初の入港を皮切りに、日本船、外国船合わせ67回となり、那覇港過去最高の寄港回数を記録しました。

**那覇港管理組合  
今後の主な予定**

- 那覇港管理組合設立10周年  
記念講演会(1月10日)
- 那覇港管理組合議会2月  
定例会(2月中旬)
- ディナーとダンスのタベ  
(於:にっぽん丸、2月20日)  
(於:ばしふいっくびいなす、  
4月18日)

～那覇港管理組合議会のうごき～  
行政視察の実施(10/15～)

○クルーズ船先進地である米国のマイアミに、  
議長を含め8人の議員が行政視察を行いました。

11月定例会の開催(11/15～19)  
下記の議案が同意・認定されました。

- 議案第1号:工事請負契約について  
(泊ふ頭旅客ターミナル棟建築工事)
- 議案第2号:  
平成23年度那覇港管理組合一般会計歳  
入歳出決算書の認定
- 議案第3号:  
平成23年度那覇港管理組合特別会計歳  
入歳出決算書の認定



# 那覇港写真館



仕事始め式の常勤副管理者あいさつ

波の上緑地内に今年の干支参上



